模擬授業と組み合わせた新しい学生参加型F D: 富山モデル

橋本 勝 *, 久保 卓也 **
(* 富山大学教育・学生支援機構, ** 富山大学人間発達科学部 4年)

1. はじめに
2005 年度に始まり毎年開催されている岡山大学の「i * S e e (教育改善学生交流)」
や 2009 年度の立命館大学を出発点とし各大学を会場校として年 2 回のベースで開催され
ている「学生 F D サミット」を代表格とする学生参画型 F D イベントにおいて、今日では
多くの大学で多様に展開されるようになった学生参画型 F D あるいは学生主体型 F D の相
互交流が活発になされているが、そこでしばしば指摘され続けている論点の 1 つは、各大
学の諸活動と、それとは別に教職員・大学が主として自大学教職員を対象に開催している
一般的な F D との融合をどう図るかという点である。岡山大学の「桃太郎フォーラム」の
ように、伝統的にその具体化を図っている大学は稀であるし、その岡山大学でさえ「融合」
とイメージには程遠いのが実情である。これで良いのであろうか。

2. 学生参画型 F D の狙い
報告者の橋本が岡山大学で、先人たちのアイデアを基に、F D の進展・活性化を目的と
して 2001 年度から学生参画型 F D という新基軸を世に問い始めたのは、一定の割合以上
に進まない F D の進展に対する起爆剤としての意味もあるが、むしろ「教職員・大学側が
教育改革・授業改革を熱心に取り組んでも学生側にそれに呼応する姿勢が弱ければ F D の
実効性は乏しい」という判断があった。学生目線を活かすことを通して教育の提供側と学
校側の意識がマッチしてこそ教育改善は進むと考えたわけであり、そこをここの学生参画型
F D の狙いがあったと言える。それゆえ、最初に取り組んだことは、当時、不十分な点が
目立っていたシラバスや授業評価アンケートを学生目線で見直してもらったり、学生発案
で新しい教養科目を立ち上げようとしたりしたことであり、はじめから従来型 F D の補完
的性格が強かった。それらの「学生の声」がスムーズに通るように中心的役割を担う学生
たちには異例ともいうべき役職や権限を与え、全校的に事が運びやすいよう事務方の全面
的協力を取り付けた。学生たちは教職員の盲点だった新入生向けオリエンテーション
の一部を自分たちにやらせてほしいという要望などが出たが 1 年以内に実現した。手探り
状態ながらも従来型 F D と学生参画型 F D との融合が初めから目指されていたと言ってよ
い。まだ、G P 関係の競争的資金のない時代であり、予算ゼロで何ができるかを考えざる
を得ない状況の中、例えば学生が F D 関係のイベントに参加する旅費を工面するために教
職員のカンパを募ったことも懸案したい。

3. 富山での新展開と新しい試み
橋本が 2011 年に富山大学に移るまで、また現在でも岡山大学は上記の方向性を維持し
ており、私の後継者たちはもちろん学生・教職員教育改善専門委員会の代々の学生・教職
員委員たちには大きな敬意を表したいが、本報告の主内容は富山での新展開の紹介にある。
富山で新たに始めた動きの一つである「市民も輪に加える」というUDという要素については今回フォーラムでは、参加者企画セッションの一つ「学生参画型FDによる教育の質改善を問う」で報告予定であり、ポスターセッションでは、それとは別の、全く新たな試みの概要紹介を行う。授業公開と組み合わせた全く新しいタイプのFDの紹介である。

従来型FDの1つとして多くの大学で実施されているものの1つに「授業公開」がある。初等・中等教育で活発な「研究授業」にも似て、参観者が後で授業を振り返りながら検討会を開くタイプが目立つ。ここに学生参画型FDを融合させたらどうなるかを試してみたのが本報告だと理解頂けたい。以下が実際のスケジュールであり、昨年11月4日（水）午後に開催した。特徴的なのは、授業参観直後に授業の受講学生とFDに参加した教職員がその授業を手掛かりに教育改善についてフラウンに話し合う内容を組み込んだ点である。

・オープニング（開会宣言／副学長挨拶など）
・全体の趣旨説明と公開授業の概説（20分）
・公開授業の参観（40分）
   ※実際に開講中の「現代社会論」の一部を切り取って短縮版で公開。
・数名単位に分かれてのグループ討議（40分）
   ※各グループにファシリテーターを配置。グループは学生・教職員が混在。
・全体討議（55分）進行：理学部教務委員長
・クロージング（全体総括とアンケート記入）

私の知る限り、一般学生と教職員とが活発に討議するこの新しいFDの試みは全国初あるいは世界初のものであるが、参加者からも概ね好評であり、富山モデルとして今後、定着・普及・発展を図りたいと考えている。今回の試みでは、教職員側が企画したものに学生が参加したに過ぎないが、それでも学生が数多く参加し教職員と活発に意見交流できたことは学生にとっても教職員にとっても意義が大きく、今後、FDとしての有効性を高めるべく学生が企画段階で参画する可能性も十分あるという意味で学生参画型FDとの融合の一つの形になるのではないかと期待している。他大学にも広まれば幸いである。

４．参加した学生からの感想

富山大学には橋本の着任を機にUD Mates という学生参画型FD活動組織が誕生し、活動中であるが今回の試みにはそのUD Mates など受講生以外の学生にも参加を呼び掛けたところ10人ほどが応じてくれた。ポスターセッションではその学生の一人にも待機してもらい、この試みが学生の目にどう映ったのか等の質問に応じてもらう予定である。尚、当該学生は、卒業後、岡山大学に編入し学生参画型FDをさらに究める予定である。

参考文献（ポスターセッションでは見本を提示予定）
富山大学教育推進センター『全学FD2015報告書』…セッション来場者に無償配布予定。
橋本勝、清水亮、松本美奈編著(2009)『学生と変わる大学教育』ナカニシヤ出版、第7章。
橋本勝、清水亮編著(2012)『学生・職員と育つ大学教育』ナカニシヤ出版、第22章。
橋本勝、清水亮編著(2013)『学生・職員と育つ大学教育』ナカニシヤ出版、第17、18章。
橋本勝、清水亮編著(近刊)『学生・職員・市民と繋がる大学教育』ナカニシヤ出版。
木野茂編著(2015)『学生、大学教育を問う』ナカニシヤ出版。